



いわき市農業委員会だより



Contents

- 2 ……令和7年度いわき市農林業賞受賞者
- 3 ……Agri Interview
- 4 ……行政視察研修、農業者年金
- 5 ……農地流動化情報、Topics
- 6 ……地区だより、今号の表紙から

令和7年度 いわき市農林業賞受賞者

令和7年度いわき市農林業賞の表彰式が1月30日に開催され、本市の農林業の振興と発展に多大な功績があった2名、1団体の皆様が受賞されました。

個人・団体の部（個人）



平子 作磨 様 常磐松が台

遠野町を拠点に、国有林や市有林を中心に素材生産事業や森林整備事業に取り組み、業務改善を行い従業員が安心して働ける体制づくりに配慮するなど、長年にわたり林業の分野において貢献しております。また、磐城林業協同組合では、長年にわたり理事長を務め、チェンソー取扱作業指導員として、いわき市全体の林業従事者を対象に安全衛生教育・指導を実施するなど、林業従事者の確保・育成に取り組んでおります。

さらに、林業アカデミーふくしまの立ち上げに携わるとともに、運営会議の委員として、林業人材の育成を通じて地域林業の発展に貢献されております。

個人・団体の部（団体）



株式会社JRとまとランドいわきファーム
四倉町中島

平成26年9月に設立された農業生産法人で、約1.7haの大規模ハウスに年間を通して約10種類のトマトを栽培しております。平成29年4月にJGAP、平成30年8月にはFGAPを取得し、適切な農産物の生産工程管理を行い、品質や安全性、労働の安全性にも配慮した持続可能な農場運営に取り組まれております。また、生産されるトマトの一部は「サンシヤイントマト」として出荷され、業務用トマトも栽培し、商社へ販売するなど販路拡大に努め、グループ会社と連携し、トマトの収穫体験の実施や6次化商品の開発に取り組むなど、いわき産トマトのPRに貢献しており、本市農業の振興に寄与されております。

青年の部



折笠 明憲 様 遠野町上根本

遠野地区を中心に水稲及び季節野菜の栽培を行うほか、高齢農家からの稲刈り作業を積極的に受託し、地域農業の維持に寄与されております。平成24年にミニライスセンターを設立、乾燥機・糶摺り機等を導入し、作業の効率化と品質向上を図っております。

また、県農業協同組合青年連盟幹事長として、県内外の若手農業者との交流を推進し、若手が相談しやすい環境づくりをするなど、地域農業の発展に寄与しております。

さらに、遠野地区の小学生に対する食育活動を通じ、稲や米を用いた体験型学習により農業への理解と食の重要性を伝えるなど、次世代への農業継承にも尽力されております。



室町時代から受け継ぐ 米づくり

常磐岩ヶ岡町

鈴木 忠光さん

今回は、常磐岩ヶ岡町にて約4haの農地を耕作する鈴木忠光さんにお話を伺いました。

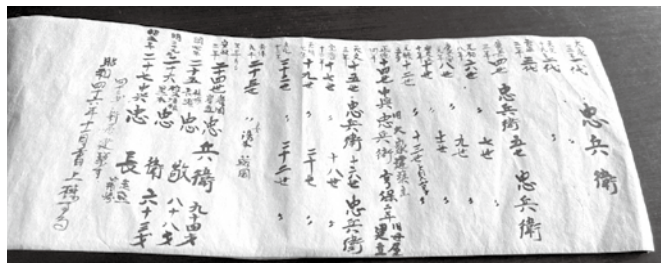
市内でも数少ない、40代の米農家として活躍する忠光さん。「実は親からは、農業では生活が厳しいから農家にはなるな、と言われて育ったんです。」と笑います。そんな忠光さんが、室町時代から続く農家の29代目を継ぐことになったきっかけは？

25歳の頃、消防士に入職し6ヶ月間の寮生活に入ったその翌日、突然祖父が倒れ帰らぬ人に。その4ヶ月後には父が、相次いで他界されたそうです。一家の大黒柱である2人が亡くなり生活は一変しましたが、春が来て田植えせねばと落ち着かない祖母や母の姿と、まだまだ使える農機具たちが忠光さんの心を動かしました。最初の年は、右も左も分からない中で近所の方に教えてもらい、家族と身近な人が食べる最低限の量を確保しようと4反のみ耕し、農家としての一步を踏み出しました。転機となったのは、農家を継いで2年後に発生した東日本大震災で、食糧が買えなくなった経験です。その時に食の安全についてや、今後起こりうる経済の変化について学びを深めたことで、自分で食べ物を作ることの大切さを実感し、米づくりに対する向き合い方が変わったそうです。



今では自然栽培や減農薬・減化学肥料にこだわったお米作りに励み、安全・安心な食を求める方に定着してきました。これからも耕作面積を広げていく予定ですか？と尋ねると、農機具の大きさや自分一人でできる範囲、将来子どもに受け継ぐ時の負担感のバランスを考えると、今よりも少し広げた5ha目を継ぎたいと思います。「子どもが30代自分の役目は環境を整えることです。」そう話す忠光さんの目は、静かに熱く、将来を見据えています。

(撮影・執筆 菅野 綾)



行政視察研修で 千葉県成田市へ

いわき市農業委員会、農業委員・農地利用最適化推進委員20名は、令和8年1月19日・20日の両日、千葉県成田市の有機農業の取組みと、同じく千葉県の印旛沼に於ける、大規模の農業用排水施設を研修してまいりました。

初日の成田市役所では、経済部農政課による成田市の農業、とりわけ有機野菜を始めとする有機農業に関する説明がなされました。

しかし、残念なことに成田市も年々農業戸数は減少傾向にあり、2020年には1856戸となり、令和6年には、有機農業者が取組面積8253a・35戸となっています。又、学校給食に有機農産物をより多く取り入れるべく、令和11年までには目標値、取組面積9078a・有機農業者38戸とすると共に、令和7年度の有機米使用学校が3校を、市立小中義務教育学校全校(29校)へ、有機野菜も全使用量の5%を目指しているようです。

成田市における有機農業の取組は、30年以上前から行なわれており、環境にやさしい農業に取組んでいる農業者団体が複数あり、今後も拡大が期待されます。また、成田市は成田国際空港を有しており、空港近くに卸売市場を移転したことにより、農産物の輸出にも力を入れていきたいということでした。

2日目は、印旛沼の農業用排水施設の有様を視察しました。印旛沼は千葉県の北部に位置し、成田市にも隣接し周辺には広大な水田を有しています。今回はその中でも印西市の、



令和2年度に完成した宗吾西機場を見学することになりました。内径19.9m、壁高27.8mの円柱型の吐水槽がひときわ目につきました。最大排水量1710m³の用水が周辺の水田に満遍なく行きわたる様が目にかぶようです。

現在いわき市でも有機農産物を学校給食に取り入れられていると聞きますが、その使用量の割合が多くなることを期待したいと思えます。『子供たちの未来のために』

(撮影・執筆 四家 誠)



▲印旛沼の農業用排水施設の視察光景



▶成田市役所で有機農業に関する説明を受ける

ご存じですか? 農業者年金

メリットが多い制度です

農業者の方は、国民年金の上乗せの公的な年金「農業者年金」に加入して安心で豊かな老後を!

【農業者年金の特徴】

- ①農業だけが加入できる国民年金の上乗せの公的年金です。
- ②少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型です。
- ③保険料は自分で決められ、いつでも見直しできます。(2万円~6万7千円の範囲内から千円単位)
- ④終身年金です。80歳前にお亡くなりになった場合、死亡一時金があります。
- ⑤任意脱退が可能です。脱退一時金はありません。
- ⑥保険料は全額社会保険料控除の対象、年金資産の運用益の非課税です。
- ⑦支払った保険料は、加入期間に応じ、任意脱退しても将来支給できる年金額に反映されます。
- ⑧加入後は、国民年金の付加年金(月額400円)に加入していただく必要があります。

○加入しているかどうか問わず、制度や手続きについて、専門相談員に質問や相談ができます。

専門相談員
03-3502-3199

※平日午前9時から午後5時まで

**加入
農業者年金に
できます!**

年間60日以上
農業に従事し
ていますか?

はい

いいえ

いいえ

国民年金の保
険料を免除さ
れていますか?

はい

いいえ

はい

国民年金の第
1号被保険者
ですか?

はい

いいえ

いいえ

あなたは60歳
未満ですか?

はい

いいえ

いいえ

農業者年金に加入できません

農業者年金基金のシミュレーターで受け取り年金額を試算ができます!

詳しくは...
農業者年金基金
ホームページ



<https://www.nounen.go.jp/>

農業者年金基金 検索

農地流動化情報

Vol.68

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談下さい。



貸したい

| No. | 農地の所在地 | 地目 | 面積(a) |
|-----|------------|----|-------|
| 1 | 平中平窪字扇田 1筆 | 田 | 19.42 |
| 2 | 錦町町西 5筆 | 田 | 25.12 |

◎ご覧になって、手続き等の詳細を知りたいという方は、農業委員会事務局までお問い合わせください。7月1日(水)8時30分から受付開始します。

お問い合わせ先 農地調査係 ☎0246-22-7574

Topics

大野の里へ浪漫飛行

四倉町(旧大野村)山田小湊地区からの遺跡発掘報告です。当該エリアは、今年から、農地整備事業(大野第三ほ場)の詳細設計に着手しますが、その前に行われる「埋蔵文化財試掘・確認調査が、2025年3月に引き続き、2026年2月にも実施され、多くの遺物(石鏃、土偶、土師器甕等)が出土しました。

一方、このエリアは、大野条理跡として有名で、近くには、玉山古墳(前方後円墳)、高倉山古生層(三葉虫)、戸田条理遺跡等も発掘されています。

今回の試掘結果は、縄文時代晩期からの人々の生活をうかがい知ることができる大量の遺物が確認されたことから、更に、大掛かりな発掘作業に進展する公算が高いというのを聞いています。

このことから、農地整備事業が先送りされることも考えられますが、ふと、古代浪漫に思いを馳せる初春となりました。(執筆 木村義昭)

※条理とは：古代(飛鳥・奈良・平安時代)に行われた「基盤目」状の土地区画制度



【古墳時代】土師器甕



【縄文時代晩期】



【縄文時代石鏃(やじり)】



試掘作業風景

「たびとほっこり祭」が盛大に開催されました

田人地区



昨年11月23日に田人ふれあい館をメイン会場にして「たびとほっこり祭」が開催されました。

今年度の「たびとほっこり祭」は13台の軽トラが並び、フードコートには9店の出店がありました。軽トラの荷台には田人産の新鮮なネギや白菜、大根、さしみこんにやく等が所せましと並びました。フードコートには、田人観光いちご園のいちごマフィン、やまぼろしのかんぱーにゆのそば粉クレープ、こびとの森のトマトカレー、しどきの森のみそおでん、田人地区集落支援員のじゅうねん塩の栗おこわ、田人町商工会女性部の自然薯かきあげそば等地元のお店や地元産の食材を使った食べ物を中心にたくさんメニューが並



びました。

当日の開催時間は9時でしたが、時間前から新鮮な野菜などを目当てにたくさんのお客さんが並び、お昼前にはどのお店も完売になりました。

また、スピノオフェミニューとして、田人の各地でだいたいの収穫祭や陶芸体験、焼き菓子のプレゼントなどの企画が催され、たくさんの方に楽しんでいただきました。

「たびとほっこり祭」の第1回は平成20年(2008年)。台風19号による被害を受けた令和元年とコロナが蔓延した令和2年・3年は「田人ひっそり市」というネーミングで小規模に開催しました。第1回から毎年たくさんの方に田人に来ていただき、地区住民としてとても嬉しく思います。これからも多くの方に来ていただき、田人の豊かな自然や美しい風景を楽しんで、田人の人とふれあっていただけばと思います。

(撮影・執筆 油座盛明)

今号の表紙から

土のぬくもりを感じながら、今年もジャガイモの収穫時期を迎えました。7月号の表紙には、そんな収穫の喜びあふれる一枚を選びました。

畑から掘り起こした一つひとつに、時間と手間、そして自然の恵みが詰まっています。

物価上昇が続く、これからさらにインフレが進んで行く中で、「自分たちで作ることの大切さ」を子供たちへ伝えていくこと。これもまた私たち大人の大切な役割だと感じています。

畑に立ち、汗を流し、草を取り丁寧な育てたモノを自分の手で収穫する経験は、食べ物のある

りがただだけでなく、「生きる力」や「考える力」をも育ててくれます。

そして何より、自らの手で収穫したものが、親の手で温もりある料理へと変わり、食卓での笑顔につながったとき、最高の馳走へと変わります。

これからの時代を担う子どもたちが、自然と関わりながら農業を楽しめる環境をつくることも、私たち大人の大切な役割です。

作る喜びを次の世代へとつなぎ、豊かな未来を築くため、私たち大人ができることを一歩ずつ積み重ねていきたいと思えます。

(執筆 鈴木忠光)

No. 209

編集後記

「TAGAYASU」に名称が変わり、7部目になります。編集後記となり「文字とのふれあい」が大変増えてきたことを実感しています。もしも、見る聞く話すしかなかったら壮大な歴史の変化を知ることは叶わなかったと思われれます。「文字」には残す力が備わっていると強く感じます。農業委員会だより「TAGAYASU」も振り返って見た時に農業の歴史、いわきの歴史などを思い起こすことができるかと思えます。

ちなみに「TAGAYASU耕(す)」は「田返す」の音変化で田畑を掘り返すの意味があり、人にとっては、過去を振り返る意味合いにも取れます。「文字とのふれあい」により、数々の思い出など心を耕すこともできるのではと思えます。

皆様も日記、手紙、メモ、何にでも「文字」を書き留めておいてはいかがでしょうか？

過ぎ去りし過去には感動が埋もれているはずですよ。

(執筆：新妻吉人)

編集委員

鈴木義直委員長・菅野綾副委員長
加茂直雅・四家誠・鈴木忠光
木村義昭・新妻吉人・油座盛明

